

## 離開した正中創の管理と 並行して行うストーマケア

### 離開した正中創と近接するストーマケアの困難さ

離開した正中創の多くは壊死組織が残存し、創洗浄が頻回に行われます。ストーマは創から3～4 cm以内に造設されていることが多く<sup>3)</sup>、排泄物の水分や滲出液、創洗浄にさらされ、耐久性が低下します(図10)。ストーマ装具が剥がれると創内に排泄物が侵入し感染の原因になり、敗血症を併発する可能性があります。また、創内にストーマが存在する場合があります。

### ケアのポイント

ストーマ装具の装着を困難にしている要因は、創の洗浄液や滲出液にさらされる、離開した創に装具がかかってしまう、ケアが複雑になるなど多数あります<sup>4)</sup>。ここでの目標は、確実な装具装着で離開した正中創の感染悪化や拡大の予防を図り、治癒へ導くことです。何を優先させて装具やアクセサリを選択するか、次に述べるポイントで整理しましょう。

### 装具装着のための安定した平面をストーマ周囲に確保する

創内にあるストーマの多くは、装着部が平らではありません。また滲出液も多いため、水分を吸収して隙間を作らないことが重要になります。

まず、ストーマ周囲2 cm幅の平面確保を目標にします。最近では陰圧閉鎖療法(NPWT)で創傷管理を行うことも多くあります。その場合、陰圧で便が創内に流入しないようNPWTのフィルム材の上から装具を装着します。図11では、用手成形皮膚保護剤のアダプト皮膚保護シールを使用しました。ストーマ周囲を2 cm幅で覆い、皮膚の高さと合わせた厚さに成形し、平面を確保します。その後、NPWTの陰圧が確保されたことを確認して装具を装着します。この用手成形皮膚保護剤は創内の滲出液を吸収して膨潤するため、創底の凸凹の補正が可能になります。



図10 陰圧閉鎖療法に近接するストーマ



図11 離開創内にストーマがあるケース：陰圧閉鎖療法を併用

### 面板の装着面積に応じた装具を選択する

ストーマと創部が近い場合、正中創からの滲出液で装具が剥がれやすくなるため、面板面積を考慮した選択が必要です。

図12は正中創が離開しストーマが腸骨側に偏位したため、ストーマ装具を装着する平面が狭くなっています。まず、下肢を動かさずと腸骨に沿って生じるしわを埋めるよう用手成形皮膚保護剤を貼付します。その上にリング状で硬い皮膚保護剤のアダプト凸面皮膚保護リングを貼付し、ストーマ周囲に平面を確保します。そして接皮面積の小さい装具を装着します。

### 面板の周囲からの滲出液などから保護する

創からの滲出液や洗浄処置でストーマ装具が濡れないようパウチをテープで留めたり(図13)、ドレーン挿入部の滲出液で面板が溶解するのを防ぐため端を切ったりします(詳しくは基本編6章[p42～]参照)。

### チームの誰もが実施可能な貼付方法を用いる

合併症があると複雑なケアになりますが、さらなる合併症の予防には確実な装具装着が必要です。そこで装具やアクセサリ類の特徴(表2)を生かして、誰でも実施可能な簡便なケアにすることが重要です。さまざまなアクセサリがありますが、すべての特徴を理解することは困難です。使用頻度の高いものを正しく使用できるよう知識の共有を図ることが大切です。

### 経済的な装具を使用する

多くの場合、毎日の装具交換が必要で、アクセサリも使用するため装具代は患者・家族の負担になります。そのため、経済性も考慮する必要があります。



図12 ストーマ周囲の平面が狭いストーマのケア



図13 創洗浄時にストーマ装具の袋部が濡れないようテープで固定

表2 アクセサリの特徴

製品名	特徴
アダプト皮膚保護シール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 任意の形状に成形できる</li> <li>● 水分を吸収して膨潤し隙間を埋める</li> </ul>
イーキンシール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 任意の形状に成形できる</li> <li>● 水分に膨潤せず溶解する</li> </ul>
アダプト凸面皮膚保護リング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 凸型で水分を吸収せず膨潤する</li> <li>● 丸形と紡錘形がある</li> </ul>